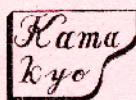


鎌倉交響樂團

第10回定期演奏會

10月29日(日) P.M. 7:00

鎌倉市中央公民館



鎌倉交響楽団第10回定期演奏会

後援 鎌倉市教育委員会
鎌倉音楽クラブ

————— 曲 目 —————

1. 歌劇<フィガロの結婚>序曲 K 492

モーツァルト

指揮 前田幸市郎

2. バイオリン協奏曲ホ短調 op.64

メンデルスゾーン

(V) 独奏 蓬田清重

指揮 前田幸市郎

アレグロ・モルト・アパッシオナート ホ短調 2/2拍子

アンダンテ ハ短調 6/8拍子

アレグレット・ノン・トロppo ホ短調 4/4拍子

————— 休 憩 —————

3. 交響曲第2番ニ短調 op.73

セザール・フランク

指揮 前田幸市郎

レント ニ短調 4/4拍子

アレグレット 変ロ短調 3/4拍子

アレグロ・ノン・トロppo ニ長調 2/2拍子

4. 行進曲<威風堂々> エルガー作曲

指揮 東 清蔵

1967年10月29日(日) P.M. 7.00

鎌倉市中央公民館

蓬田 清重 氏 KIYOSHIGE YOMOGIDA

静岡県出身。31才。沼津東高より芸大を経てN響入団。専攻科でバイオリンの勉強を続け、さらにドイツ語、自動車運転などをマスターして、ドイツ政府留学生試験に合格、ミュンヘン音楽大学で名教師ウイルヘルム・シュトロス教授について一そうの修業を積んで一昨年帰国し、古巣のN響へ復職された。このような略歴でもわかるとおり、専門分野にかけては竹々の欲張りであるが、性質は無欲で明朗で、「よもさん」とか「しげさん」といった愛称で誰にも親しまれ、名人肌の演奏家にありがちな冷たさや委屈さのカゲもない。

ドイツやヨーロッパ各地をシュトロス四重奏団員として、独奏家として駆けまわり、イタリアーでは大金を支払って *Ceruti* の名器を買ってきたが、青い日のお嫁さんだけは連れて帰らず、日本の女性ファンをホッとさせた。

● 曲目解説 モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」序曲

短命・多作の大作作曲家、モーツァルトは22曲のオペラを残しているが、魔笛、ドン・ジョヴァンニ、そしてフィガロは代表的名曲として今日も上演され、レコードも売れている。筋は、ロッセーニの「セヴィラの理髮師」の続きの物語りで、好色の伯爵と、その奥方のロジナ、床屋のフィガロと召使いのスザンナの四人が入り乱れてのドタバタの展開する音楽喜劇である。

鎌響では「セヴィラの理髮師」序曲は3回ほどとりあげ、今度は「フィガロ」というわけであるが、軽快無類の、たった3分で終るこの序曲が、実はたいへんな曲者で、演奏困難な個所が多いのである。(オペラの序曲には、厄介なものが多いようである。ロッセーニの「ウィリアム・テル」序曲などうっかり演奏しようものなら、そのオケは必ずメモごとが起こって、つぶれてしまうといわれている。序曲は怖い、ドラキェラよりも。)

さて、この序曲は1786年4月29日に完成したが、内容のある、たのしくて皮肉で、可愛い名序曲として名高いものである。展開部のかわりに短い経過部のある、ソナタ形式で書かれている。

メンデルスゾーン バイオリン協奏曲

19世紀ロマン派では多くのすぐれたバイオリン協奏曲が書かれたが、中でもこの曲は傑作とされている。作曲者はバガニーニ、ヴェータン、ウィニアフスキイなどのようなバイオリンの名人独奏家でなかったため、その点を友人のダヴィッドという名手が補って、独奏部分の技巧の相談役となり、6年がかりで念入りにつくられ、1844年、ライプチヒ・ゲヴァントハウス管絃楽団とダヴィッドの独奏により初演された。このようないきさつで出来た曲ゆえ、バイオリン技巧は出すぎたり暴走したりせず、始終快よいテンポで流麗きわまりない楽想をくりひろげてゆく。すこしもくつしない、上品である、甘美で若々しい、力と情熱にあふれている、まさに秀作である。チャイコフスキーの協奏曲とこれがウラおもてになったものは、レコード会社の弗筈のひとつになっている。またバイオリンの名手はこのどちらもあざやかに弾けなくてはならない。春と秋、明と暗。バイオリン音楽の底知れない表現の深さが、この二つの協奏曲には対照的にあらわれていて興味深いのである。思想的に解釈すれば、メンデルスゾーンの協奏曲は青春の華やかさを、チャイコフスキーはおとなの憂愁を表現したとも言えよう。

フランク 交響曲ニ短調

軽薄化したフランスの音楽の流れに反して終生敬虔な態度で古典的な純粋音楽の世界を探求し、宗教的感動や哲學的思索の境地を表現し続けたのが、この作曲家の特長である。だいたい時代は新しく(1887年にパリ音楽院で初演)なっているのに、作曲技法も仲々手がこんでいて、純然たる近代音楽であり、転調も変幻自在で、しかも理づめの構成をとっており、フランク独得の「循環動機」による形式をもち、テンポもレントからアレグロに移り、とびはね、冥想し、祈り、はげしく争い、ついには一切を綜合するかのよう^にに歓喜のうちに力強く曲は終るのである。

フランクの作品は、あまり多くなく、交響曲はこれひとつ。あとはピアノ三重奏曲、ピアノ曲十幾つ、オルガン

曲、教会音楽、歌曲が知られるが、とびぬけて有名なのは、1886年作のバイオリンソナタである。これは実に純粋無垢な宝玉のような作であり、これにくらべたら、クワイツェルソナタも軽薄で野暮ったくきこえるほどである。フランクというのはそのくらい浮世離れた、**音楽の仙人**めいた人物であつたらしい。50才までは教会のオルガニストとして、コツコツと勉強し、試作を重ね、それ以後の十余年間に次々と各分野での、誰のまねでもない名作、傑作の數々を生み、しかも世にたやすく知られ、もてはやされることを作品自らが拒否し、今日にいたっているのである。

鎌倉交響樂團メンバー

委員長 福井孝一
 名誉指揮者 東清蔵
 常任指揮者 前田幸市郎

(順不同)

Violin	飯田光子 永江正臣 塚本祐子 中静流子 富樫明子	石川由美子 松原千子 林信子 大藤沙き	西井久美子 青野慶子 舘川健 窪山美二子	改尾和子 板倉由美子 小笠原綾子 桐本圭三	佐藤元一 長峯忠雄 小森明子 竹内公子
Viola	丹治江厚 薬師寺厚	松平定康 阿部黎子	日比谷平一郎 村山智朗	長町朋行	谷川瑞總
Violin Cello	伊沢竜作 越智昌利	服部甚藏	浄法寺章	朝香誠彦	前田幸康
Double Bass	大内達郎	堀清	長谷恭男		
Flute	益山弘	内田秀夫	滝沢三郎	小林悦子	高木
Oboe	大野守	小磯滋	山本賢二 (京都音楽)		
Bassoon	岩水祐子	酒井桂子	川上明弘		
Clarinet	東博之	土肥昭一	古藤寛	池田久雄	
Horn	境野建彦	徳永正剛			
Trumpet	斎藤昭	重松信紀男	中村邦彦	富士川哲夫	高橋善彦
Trombone	岩沢忠夫	重口昇			
Tuba	石川克美				
Timpani & Percussion	高橋誠也	元松信男	小長谷宗一	助川利信	
Assistant Conductor	高橋誠也	矢崎彦太郎			
Stage manager	清岡道男	島谷工俊			

タフな髪型をつくる

《ベタつかない》

バイタリス

整髪はベタつかないバイタリスでいこう
独得のマッサージ整髪で激しいアクションに
耐えるタフな髪型をつくります
若者ならバイタリスです

600・400・250・150円



製造発売元・ライオン商標 総代理店・日本L.B. 提携・プリストルマイヤーズ

洋服の

オーダーメイドは

鎌倉テーラー

代表者 井川清太郎

由比ヶ浜通り

TEL. (2) 2408

伝統を生かした最高の味

千羽鶴サブレ

フゲンヌ風ぼんそれト



風月堂

ぼんそれいゆ

由比ヶ浜店 Tel. (2) 0963 代表

鎌倉駅前店 Tel. (2) 2538

江ノ電藤沢駅構内売店 Tel. (2) 8932

フランス料理



小町園

横須賀線下馬ガード脇

TEL. (2) 2370

祝鎌響第五周年記念演奏会

小町通り

湘南証券

Tel. (2) 6700~4

株式・社債・電話債券の御用命を